

公 告

第102回日本医療機器学会大会

演題募集について

大会テーマ：「医療機器学シンカー深化・進化・真価—深化する学び，進化する技術，真価を問う医療機器学」



このたび，第102回日本医療機器学会大会並びに併設展示会「メディカルショージャパン&ビジネスエキスポ2027」を，2027年6月24日（木）から26日（土）までの3日間，横浜・パシフィコ横浜にて開催いたします。大会長として皆様をお迎えできますことを大変光栄に存じますとともに，本学会の発展にご尽力されている会員ならびに関係者の皆様に，心より敬意と感謝を申し上げます。

昨年開催された第101回日本医療機器学会大会では，「医療機器学サイコウ—再考・再興・最高—」をテーマに，本学会の原点に立ち返り，医療機器学が果たすべき使命や社会的役割について，多くの示唆に富む議論が交わされました。医療機器学とは何のために存在するのか。医療機器は誰のためにあるのか。そして産・学・医がどのように連携し，未来を築いていくべきか。本大会は，そうした議論を一過性のものとせず，未来へつなげるための“次の一歩”として位置付けています。

そこで第102回大会では，「医療機器学シンカー深化・進化・真価—」をテーマに掲げました。

1つ目の「深化」とは，知識や経験を積み重ね，本質を探究し続けることです。宮本武蔵は「千日の稽古を鍛とし，万日の稽古を錬とす」と述べています。研究，教育，保守管理，臨床応用など，日々の地道な積み重ねが医療機器学の基盤を形成し，次世代の医療を支える力となります。

2つ目の「進化」とは，変化する社会や医療環境に対応し，新たな価値を創造し続けることです。スティーブ・ジョブズは「イノベーションとはリーダーとフォロワーを分けるものだ」と語りました。AI，ロボティクス，DXなど，新たな技術が医療を大きく変えようとしている今だからこそ，既成概念にとらわれない挑戦が，新しい医療機器学を切り拓く原動力になると考えています。

そして3つ目，最後の「真価」とは，研究成果や技術が実際の医療現場で活かされ，患者さんや医療従事者，さらには社会全体に貢献して初めて示される価値です。福澤諭吉は「学問は実際に役立てるためにある」と説いています。優れた研究成果や革新的な技術も，社会実装され，医療の質向上へ結び付いてこそ，その真価が発揮されます。

医療機器の開発は，臨床ニーズから始まり，研究開発，評価，薬事，製造，保守管理，教育を経て，医療現場へ届けられます。この一連の流れには，医師，看護師，臨床工学技士，滅菌技師／士，MDIC，研究者，企業，行政など，多様な専門家が関わっています。本大会では，それぞれの知見を持ち寄り，「研究から社会実装まで」を俯瞰しながら議論することで，医療機器学のさらなる「シンカ」を実現したいと考えています。

本大会では，医療材料や医療機器をはじめ，プログラム医療機器（SaMD）・生成AI，医療画像，人工呼吸器，血液浄化装置，人工臓器などの基礎研究・技術開発から，医工連携による製品開発・改良，

臨床工学，手術室・ICUにおける機器運用，医療機器安全管理（FMS），保守管理（QMS），電磁環境管理などの医療機器マネジメント，さらには医療 DX，XR，医療ロボティクス，遠隔医療，サイバーセキュリティなどの次世代医療基盤技術，洗浄・消毒・滅菌，感染防止，トレーサビリティ，病院設備，医療物流・BCP，医学教育，人材育成，医療経営，薬事・法制度まで，医療機器に関わるあらゆる分野から幅広く演題を募集いたします。基礎研究から社会実装まで，医療機器のライフサイクル全体を俯瞰できる研究成果や実践報告を広く募集いたします。完成された研究のみならず，臨床現場の課題解決や業務改善，教育実践，新たな技術の萌芽となる報告も歓迎いたします。

第 101 回大会が「原点を見つめ直す大会」であったとすれば，第 102 回大会は，その理念を未来へつなぎ，社会へ実装する大会です。皆様一人ひとりの研究，技術，そして現場での実践が，医療機器学の「深化」を支え，「進化」を生み出し，その「真価」を社会へ届ける原動力になることを期待しております。ぜひ多くの皆様に演題をご応募いただき，ともに医療機器学の未来を語り，創り上げてまいりましょう。

横浜の地で皆様とお会いできますことを，心より楽しみにしております。

第 102 回 日本医療機器学会 大会
大会長 中島 章夫
(杏林大学保健学部臨床工学科 教授)

1. 会 場：・パシフィコ横浜・アネックスホールおよびノース

〒222-0012 神奈川県横浜市西区みなとみらい 1-1-1

TEL：045-221-2155 <https://www.pacifico.co.jp>

2. 会 期：2027年6月24日（木）～6月26日（土）

・学 術 集 会 6月25日（金）～6月26日（土）

・メディカルショー・ジャパン&ビジネスエキスポ 2027

6月24日（木）～6月26日（土）

3. 募集演題の区別

募集する演題の種別は、通常の「一般演題」、企業新製品やソリューションなどを紹介する「トピックス演題」、次世代の医療機器開発・運用を担う若手人材の育成と交流を目的とした「大学生・大学院生ポスターセッション」といたします。奮ってご応募ください。

1) 「一般演題」の申込み要件

「一般演題」は、現地での会場参加による口述にて発表していただきます。発表には、発表者または共同発表者のうち、1名が本学会の正会員であることが必要です（演題申込時に非会員の方は、演題採択後に入会手続きをしてください）。申し込まれた演題は、プログラム委員会で抄録内容を審査した結果、演題種別を変更させていただく場合や不採択とする場合がありますのでご了解ください。

2) 「トピックス演題」の申込み要件

「トピックス演題」は、現地での会場参加による口述にて発表していただきます。発表内容は原則として企業における新製品開発や製品改良、さらには具体的なソリューションを発表するものとします。発表には、発表者の所属する企業が本学会の企業会員であるか、併設展示会「メディカルショー・ジャパン & ビジネスエキスポ 2026」の出展企業であることが必要です。トピックス演題に申し込まれますと演題名に商品名の標記が可になります。文献的考察やエビデンスの提示は不要です。

ただし、申し込まれた演題は、プログラム委員会で抄録内容を審査した結果、単に企業名の宣伝やイメージアップ活動、新製品紹介を目的としたものと判断された場合は不採用となりますのでご了承ください。

3) 「大学生・大学院生ポスターセッション」の申込み要件

「大学生・大学院生ポスターセッション」は、現地での会場参加によるポスター前で口述にて発表していただきます。発表には、発表者が発表時点で大学、大学院、専門学校等に在籍する学生であることが必要です。既発表の内容を含む場合でも、学生自身の考察が加わっていれば応募可能です。申し込まれた演題は、応募題数やプログラム委員会で抄録内容を審査した結果、発表方法を変更させていただく場合や不採択とする場合がありますのでご了解ください。

4. 発表形式

日本語による口述発表とします。

1) 「一般演題」, 「トピックス演題」

発表時間は質疑応答を含め1演題10分程度の予定です（ただし、応募演題数により発表時間に変更になる場合があります）。

各会場にはパソコン用プロジェクタ1台を用意しますので、各自パソコンをご持参して頂くか、USBメモリをご持参して頂き、学会で用意するパソコンを使用するかのいずれかになります（詳細要領は学会誌2027年4月号に掲載します）。

2) 大学生・大学院生ポスターセッション

ポスター発表を講演者・聴講者双方から魅力あるものにするために、セッションごとに座長の進行のもと質疑応答を含め1演題10分程度の予定で、ポスターの前で口述発表をおこなっていただきます。ポスター掲示用ボードのサイズについては、大会抄録集（学会誌2027年4月号）の発表要項にて詳細をご案内します。

5. 申込方法

- 1) 学術集会演題抄録登録システム (https://endai.umin.ac.jp/reg/input.cgi?site_id=A00013-00031-012) か、学会ホームページ内の第102回学術大会ページ (<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsmil02>) のリンクからお申込ください。
- 2) 申込受付期間:2026年9月20日（日）～2027年1月20日（水）とします。期間内であれば、抄録内容の追加・修正は可能です。
- 3) 演題の採否、発表形式ならびに講演時間などについては、大会長にご一任願います。
- 4) 登録ページの指示にしたがって、演題の所定内容（以下のもの）を登録してください。
 - (1)演題分類番号（**7項の演題分類**から希望分類を一つ選んでください）。
 - (2)講演形態（一般演題, トピックス演題, 大学生・大学院生ポスターセッション）
 - (3)発表形式（口述発表）
 - (4)演題名（40文字以内）。一般演題の演題名として商品名の記載は不可（トピックス演題の場合は可）とします。
 - (5)発表者と共同発表者の氏名および所属施設名。
 - (6)抄録本文は、日本語800字以内にまとめてください。図表・写真は使用できません。
 - (7)記載上の注意事項：一般演題の場合、抄録演題名に商品名を記載することはできません。本文中で商品名を記載する場合、商標登録されている場合は後ろに必ず上付きで®マークをつけてください。
 - (8)確実な連絡先（住所、氏名・ふりがな、電話／FAX番号、e-mailアドレス）

を記載してください。

(9)発表に関する利益相反（COI）を申告してください（6項参照）。

(10)演題登録時には登録者本人に任意のパスワード（半角英数文字6～8文字以内）を決めていただき、演題登録が終了すると同時に登録番号が発行されます。パスワードと登録番号は抄録内容の確認や修正に必要となりますので、必ず控えを取るか、その画面をプリントアウトして保存してください。なお、パスワードと登録番号の記録および機密保持は、登録者ご本人に依存します。セキュリティ確保のため、パスワードと登録番号に関するお問合せには一切応じられませんので、ご了承ください。

(11)学会終了後に、演題発表スライドのPDF公開（本学会・会員専用HP）の公開可否（公開可、公開不可、スライド修正後公開可のいずれかを選択）。

6. 日本医療機器学会大会での発表に関する利益相反の申告について

発表者全員について発表の内容に関連する団体との関係で、抄録登録日を基準として過去2年間に於いて現在までの、以下の1)～10)の利益相反状態の有無をお答えください。

- 1) 1つの企業、法人組織や営利を目的とした団体から、年間100万円以上の報酬を受け取っている場合。
- 2) 1つの企業の株式から、年間100万円以上の利益を取得した場合、あるいは当該全株式の5%以上を保有している場合。
- 3) 企業、法人組織や団体から、特許権使用料として、1つの権利使用料が年間100万円以上の場合。
- 4) 企業、法人組織や団体から、日当（講演料など）として、1つの企業、法人組織や団体から年間50万円以上を受け取っている場合。
- 5) 企業、法人組織や団体から、原稿料（執筆料）として、1つの企業、法人組織や団体から年間50万円以上を受け取っている場合。
- 6) 企業、法人組織や団体から、研究費（受託研究費、共同研究費など）として支払われた金額のうち、1つの企業、法人組織や団体からの総額が年間200万円以上の場合。
- 7) 企業、法人組織や団体から、奨学（奨励）寄付金として支払われた金額のうち、1つの企業、法人組織や団体から申告者個人または申告者が所属する部局（講座・分野）あるいは研究室の代表者に対する総額が年間200万円以上の場合。
- 8) 企業、法人組織や団体が提供する寄付講座に申告者らが所属している場合。
- 9) 1つの企業、法人組織や団体から受けたその他の報酬（旅行、贈答品など）が、総額年間5万円以上の場合。
- 10) 過去5年以内に企業・営利を目的とする団体から研究機関および医療機関へ転職し、研究テーマが継続している場合。

該当する場合は、COI自己申告書（様式3）の送付が必要です。日本医療機器学会HPより書式をダウンロードの上、第102回日本医療機器学会大会事務局ま

で郵送にてお送りください。

また、演題発表をされる場合は、発表スライドの最初（または、演題・発表者などを紹介するスライドの次）に COI 状態の有無を開示する必要があります。

7. 演題分類

- | | | |
|--|--------------------------|-------------------|
| 1) 医療材料 | 2) 医療画像装置 | 3) 検査機器 |
| 4) 人工呼吸器 | 5) 血液浄化装置 | 6) 心肺補助装置 |
| 7) 人工臓器 | 8) インプラント | 9) 福祉・リハビリ機器 |
| 10) 周術期医療機器 | 11) プログラム医療機器・SaMD・生成 AI | |
| 12) 臨床工学（クリニカルエンジニアリング） | 13) 手術室・ICU | |
| 14) 医療機器開発／改良（医工連携） | | |
| 15) 医療機器安全管理（FMS：Full Management System） | | |
| 16) 医療機器 QMS（保守・管理） | 17) 電磁環境と電波管理 | |
| 18) 産官学連携 | 19) XR：Cross Realty 技術 | |
| 20) 医療ロボティクス・自動化 | | |
| 21) 医療 DX（IT・ICT・IoT・RPA） | | |
| 22) 電子カルテシステム | 23) サイバーセキュリティ | |
| 24) 再生医療（バイオエンジニアリング） | | |
| 25) 遠隔医療（医療機器遠隔モニタリング） | | |
| 26) ロジスティクス・SPD システム | | |
| 27) 医療機器 BCP（災害・防災） | 28) 洗浄・消毒・滅菌 | |
| 29) 滅菌保証ガイドライン | 30) 施設評価ツール | 31) トレーサビリティ（UDI） |
| 32) 病院設備（ファシリティマネジメント） | 33) 感染防止 | |
| 34) 看護業務支援 | 35) 臨床現場の課題解決 | 36) 消化器内視鏡関連 |
| 37) 体制整備タスクシフト・シェア | 38) アウトソーシング | |
| 39) 医学教育 | 40) 人材育成・組織体制 | 41) 在宅医療・介護 |
| 42) 医療経営 | 43) 薬事・法制化 | |
| 44) ダイバーシティ & インクルージョン（その他） | | |

8. 一般演題「若手奨励賞」候補のノミネートと選考方法

予め抄録原稿から候補演題をプログラム委員会でノミネート選考し、発表時に 40 歳以下（演題申込時に申込フォームから自己申告）の本学会正会員が発表した「一般演題」の中から、特にその発想や発展性の高い演題を「若手奨励賞」の候補演題として学会ホームページなどで公表します。

「若手奨励賞」の候補演題は、当日の演題発表を含め、プログラム委員会および座長によってさらに審査し、学会最終日に受賞者を表彰します。

9. 一般演題「優秀発表賞」候補のノミネートと選考方法

予め抄録原稿から候補演題をプログラム委員会でノミネート選考し、本学会正会員が発表した「一般演題」の中から、特に学術性・新規性の高い演題を「優秀発表賞」の候補演題として学会ホームページなどで公表します。

「優秀発表賞」の候補演題は、当日の演題発表を含め、プログラム委員会および

座長によってさらに審査し、学会最終日に受賞者を表彰します。

10. 大学生・大学院生ポスターセッション「優秀演題賞」

会期中の発表後、審査委員による審査をおこない、優れた発表に対して「優秀演題賞」を決定し、学会最終日に受賞者を表彰します。

11. その他

- 1) 会員各位および関係各位から多くの演題の応募を希望します。
- 2) 本学会認定の第1種滅菌技師、第2種滅菌技士による学会発表については、大会参加者に8単位のほか、①発表者：15単位、②共同発表者：10単位、③講師として講演：15単位が取得できます。
- 3) 本学会認定のMDICによる学会発表については、大会参加者に15点のほか、①発表者：15点、②共同発表者：10点、③講師として講演：20点が取得できます。
- 4) 日本生体医工学会と合同認定の臨床ME専門認定士による学会発表については、大会参加者に15点のほか、①発表者：15点、②共同発表者：10点、③講師として講演：20点が取得できます。
- 5) 代議員はぜひ1題は応募されるようお願いします（共同発表でも結構です）。
- 6) 大会抄録集（学会誌2027年4月号）に掲載されたすべての記事の著作権および版権は日本医療機器学会に帰属します。ただし、申請により引用等を認めることがあります。